

イネカメムシを防除しましょう 回覧

昨年、県内ではイネカメムシによる著しい減収や品質低下が発生しました。イネカメムシは、若い穂を求めて水田から水田に移動するため、広域的に一斉に防除を実施することが効果的です。今年も多発生が見込まれるため、地域で広域防除に取り組みましょう。

【イネカメムシの防除対策】

不稔を回避するためには、出穂期～穂揃期の防除が重要

対策① 出穂期～登熟初期の薬剤防除（2回）

- 虫がイネを加害する出穂期～登熟初期に2回の薬剤散布を行う。
1回目：出穂期～穂揃期（不稔の防止）
2回目：出穂期の8～14日後（斑点米の防止）
- ジノテフラン剤、エチプロール剤が有効とされるため、裏面を参考に薬剤を選択。
- 粒剤を施用する場合は、処理を数日早める。
- 薬液が直接虫にかかるように、薬剤散布はなるべく早朝に実施する。

品種	4月		5月		6月			7月			8月			9月
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
コシヒカリ	田植							1回目防除			2回目防除			
彩のきずな			田植					1回目防除			2回目防除			
彩のかがやき			田植					1回目防除			2回目防除			

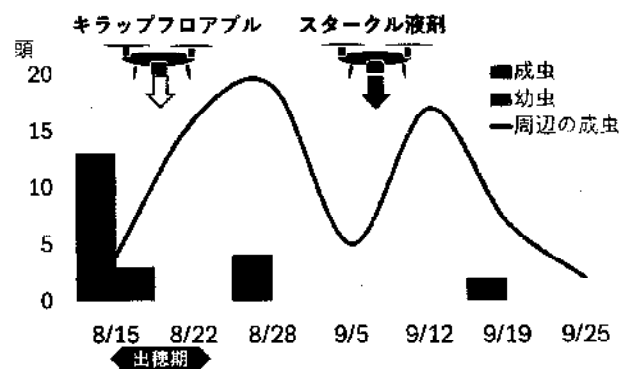
対策② 収穫後の耕うん

- 収穫後の再生株（ひこばえ）が秋の成虫・幼虫の餌資源となる。虫の越冬率を高める恐れがあるため、収穫後は速やかに耕うんして株を埋没させる。
 - 越冬場所に移動する10月中下旬頃までに耕起することが望ましい。
- ヒメトビウンカの対策としても有効。

・薬剤散布の防除効果は？

イネカメムシの発生が多かった地域・作型において、ドローンによる出穂期のキラップフロアブルまたは粒剤処理と乳熟期のスタークル液剤処理によってイネカメムシの定着を防ぎ、斑点米の発生を低く抑えることができました。

（県農業技術研究センターの現地実証試験結果から）



10aあたり	防除回数	
	0回	2回
平均収量※1	286kg	515kg
売上※2	10.5万円	18.9万円
防除費※3	0円	0.6万円
売上－防除費	10.5万円	18.3万円
		+7.8万円！

・経営上のメリットについて（試算）

イネカメムシが多発した地域での実例をもとに収益を試算した結果、無防除よりも2回防除を実施した方が10アール当たり約7.8万円高くなりました。

※1 令和6年度に県で調査した県東部地域生産者の聞き取り結果からの平均値

※2 平均収量×令和6年産米の相対取引価格（R7.1月 埼玉コシヒカリ 年産平均価格）

※3 空中散布による防除委託2回分の経費（薬剤費込み：防除業者からの情報を基に推定）

収益が得られるようしっかりと防除対策を行いましょう！

【イネカメムシの特徴】

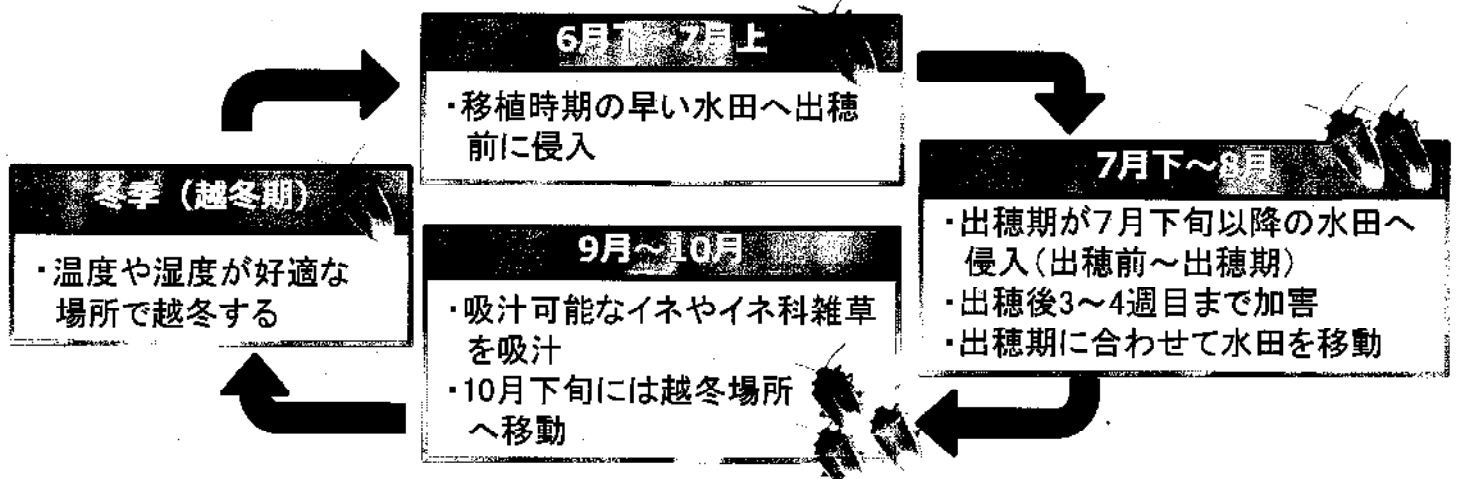
- ・斑点米カメムシ類の1種
- ・体長13mm、黄褐色
- ・出穂期にイネを吸汁し、不稔や斑点米を引き起こす
- ・特にイネを好み、越冬場所から雑草を経由せず直接イネに飛び込む(除草管理だけでは防除が困難)



不稔により粳が垂れない

吸汁による斑点米の発生

【イネカメムシの発生サイクル】



【イネカメムシの防除薬剤例】

令和7年2月12日現在の農薬登録状況

商品名（有効成分）	IRAC	散布方法	倍数・散布量	使用回数・時期
キラップフロアブル （エチプロール）	2B	散布 無人航空機による散布	1,000～2,000倍 8～16倍	収穫14日前まで 2回以内 *1
スタークル液剤10 （ジノテフラン）	4A	散布 無人航空機による散布	1,000倍 8倍	収穫7日前まで 3回以内 *2
エクシードフロアブル （スルホキサフロル）	4C	散布 無人航空機による散布	2,000倍 16倍	収穫7日前まで 3回以内
トレボン乳剤 （エトフェンプロックス）	3A	散布	2,000倍	収穫14日前まで 3回以内
キラップ粒剤 （エチプロール）	2B	湛水散布	3kg/10a	収穫14日前まで 2回以内 *1
スタークル豆つぶ （ジノテフラン）	4A	散布	250g/10a	収穫7日前まで 3回以内 *2

*1「キラップフロアブル」「キラップ粒剤」は同一成分であるため、連用は避ける。

*2「スタークル液剤10」「スタークル豆つぶ」はそれぞれ総使用回数は3回以内だが、共通の有効成分（ジノテフラン）の総使用回数は4回以内であるため、使用回数に注意。また同一成分であるため、連用は避ける。

・農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法を十分確認の上、最終有効年月までに使用する。

・農薬の使用に際しては次のホームページで確認する。農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

イネカメムシ防除に係る御相談は、お近くの県農林振興センターか
発行元のいずれかに御連絡ください。連絡先は、右のQRコードから御確認ください。



水稻の高温対策を実施しましょう！

高温の影響により白未熟粒の増加やイネカメムシの多発といった深刻な被害が発生するリスクが高まっています。適切な対策により被害を最小限に抑えましょう。

高温が引き起こすリスク

1 作業適期の早まり

高温の影響により生育速度・出穂時期が早まり、作業適期を逃すリスクがあります。

2 白未熟粒の増加

穂肥施用前の葉色が著しく低下したままの場合や、出穂後 20 日間の平均気温が 27℃を超えると、白未熟粒の発生リスクが急増します。

3 イネカメムシの多発

産卵から羽化するまでの日数が短縮され発生時期が早まるほか、発生世代数が増加し、多発や加害期間が長期化するリスクがあります。

現在の状況

- 水稻の生育は旺盛で、葉色が低下しているほ場が多く見られます。
- 早期栽培では出穂が平年より 5 日程度早まっています。
- 病害虫防除所の調査による予察灯でのイネカメムシの誘殺数が、7月 18 日時点で昨年の総頭数を超える地点が複数確認されています。
- 気象予報では向こう 1 カ月は高温が続く見込みです。

具体的な対策

1 葉色診断と穂肥

葉色診断に基づく穂肥を適期に行いましょう。

幼穂形成期に穂肥を行っても、出穂前 10 日頃の葉色が「4」を下回った場合、窒素成分 2kg/10a の追肥を行いましょう。

「基肥一発体系」でも葉色が「4」を下回った場合には追肥を行いましょう。

2 適切な水管理

出穂前後 1 週間は深水管理を徹底しましょう。

その後は、間断かん水で水と新鮮な空気を代わるがわる供給しましょう。

出穂後 30 日間は土壤水分を保ち、品質低下を防ぎましょう。

3 イネカメムシの防除

防除のタイミング：1回目：出穂期～穂揃い期（不稔粒を防ぐ）

2回目：出穂 8～14 日後（斑点米を防ぐ）

上記の時期以前に多発している場合は、増殖や拡散を防ぐため、別途早めの防除を！



農作業時の熱中症にご注意ください

【参考】主要な品種の出穂期予測から推定する栽培管理の目安（予測日：7月17日現在）

	田植日	出穂期の目安	穂肥①	穂肥② 出穂期の15～10日前	雌雄雑草刈取期限 出穂2週間前まで	イネカメムシ防除① 出穂期～穂ぞろい期	イネカメムシ防除② 出穂期の8～14日後
コシヒカリ	5月5日	7月21日	7月2日～7月4日	7月6日～7月11日	7月7日	7月21日～7月24日	7月29日～8月4日
	5月15日	7月27日	7月8日～7月10日	7月12日～7月17日	7月13日	7月27日～7月30日	8月4日～8月10日
	5月25日	8月2日	7月14日～7月16日	7月18日～7月23日	7月19日	8月2日～8月5日	8月10日～8月16日
キヌヒカリ	5月15日	7月24日	6月30日～7月5日	7月9日～7月14日	7月10日	7月24日～7月27日	8月1日～8月7日
	5月25日	7月30日	7月6日～7月11日	7月15日～7月20日	7月16日	7月30日～8月2日	8月7日～8月13日
	6月5日	8月4日	7月11日～7月16日	7月20日～7月25日	7月21日	8月4日～8月7日	8月12日～8月18日
	6月15日	8月10日	7月17日～7月22日	7月26日～7月31日	7月27日	8月10日～8月13日	8月18日～8月24日
	6月25日	8月17日	7月24日～7月29日	8月2日～8月7日	8月3日	8月17日～8月20日	8月25日～8月31日
彩のきずな	5月5日	7月20日	6月24日～6月28日	7月5日～7月10日	7月6日	7月20日～7月23日	7月28日～8月3日
	5月15日	7月26日	6月30日～7月4日	7月11日～7月16日	7月12日	7月26日～7月29日	8月3日～8月9日
	5月25日	8月1日	7月6日～7月10日	7月17日～7月22日	7月18日	8月1日～8月4日	8月9日～8月15日
	6月5日	8月5日	7月10日～7月14日	7月21日～7月26日	7月22日	8月5日～8月8日	8月13日～8月19日
	6月15日	8月10日	7月15日～7月19日	7月26日～7月31日	7月27日	8月10日～8月13日	8月18日～8月24日
彩のかがやき	6月25日	8月16日	7月21日～7月25日	8月1日～8月6日	8月2日	8月16日～8月19日	8月24日～8月30日
	5月15日	8月8日	7月13日～7月17日	7月24日～7月29日	7月25日	8月8日～8月11日	8月16日～8月22日
	5月25日	8月13日	7月18日～7月22日	7月29日～8月3日	7月30日	8月13日～8月16日	8月21日～8月27日
	6月5日	8月17日	7月22日～7月26日	8月2日～8月7日	8月3日	8月17日～8月20日	8月25日～8月31日
	6月15日	8月20日	7月25日～7月29日	8月5日～8月10日	8月6日	8月20日～8月23日	8月28日～9月3日
	6月25日	8月23日	7月28日～8月1日	8月8日～8月13日	8月9日	8月23日～8月26日	8月31日～9月6日

※出穂期の目安は7月17日現在の熊谷地方気象台の気象データ（予測日前日までの観測データ、予測日以降の予測データ）を基に農技研開発の「農作物発育予測プログラム」を用いて算出したものであり、今後の気象状況により前後することがあります。